

29年12月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成29年 12月1日～ 29年12月10日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
12月分の回答企業数は9社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

品目		29/12月	30/1月	2月
伐採動向	スギ	8.3	8.3	△ 8.3
	ヒノキ	0.0	△ 20.0	△ 20.0
	カラマツ	0.0	0.0	16.7
	エゾ・トド	16.7	0.0	0.0
出荷・販売動向	スギ	8.3	8.3	0.0
	ヒノキ	△ 10.0	△ 20.0	△ 20.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	エゾ・トド	0.0	0.0	0.0
手持立木 在庫動向	スギ	△ 8.3	16.7	16.7
	ヒノキ	0.0	12.5	12.5
	カラマツ	△ 33.3	△ 33.3	△ 33.3
	エゾ・トド	0.0	△ 16.7	△ 16.7

・スギの伐採動向は12月、1月の増加から、2月は減少に。ヒノキは12月の横ばいから1月、2月は減少に。カラマツは12月、1月の横ばいから2月は増加に。エゾ・トドは12月の増加から1月、2月は横ばいに。

・スギの出荷・販売動向は12月、1月の増加から2月は横ばいに。ヒノキは3カ月連続減少。カラマツ、エゾ・トドとも3カ月連続横ばい推移。

・スギの手持立木在庫動向は12月の減少から1月、2月は増加に。ヒノキは12月の横ばいから1月、2月は増加に。カラマツは3カ月連続減少。エゾ・トドは12月の横ばいから1月、2月は減少に。

モニターからのコメント

(伐採動向)

- ・トドマツの間伐を実行中。天候良く順調に伐採。これから積雪少なければ伐採動向はやや増加。出材は順調。運材車の手配がつけば販売は増加するが、運材車の絶対数が足りない状況。トドマツの流通材が不足している（特に小径木）。針葉樹合板の原木も不足している（北海道）。
- ・国有林のトドマツ主伐請負事業を継続中（北海道）。
- ・スギ、カラマツともに翌々月以降増加する見込み（東北）。
- ・誘導伐（主伐）開始した。約1,500m³（東北）。
- ・伐採はヒノキでスギ、カラマツはなし（中部）。
- ・スギ・ヒノキの主伐を行っているが、カラマツはほとんどなし（中国）。
- ・積雪状況によりスギ、ヒノキの伐採・出材とも減少する可能性あり（中国）。

(出材・販売動向)

- ・出材は順調。運材車の手配がつけば販売が増加するが、運材車の絶対数が足りない。トドマツの一般流通材が不足している（特に小径木）。また、針葉樹合板用原木が不足している（北海道）。
- ・トドマツの出材調整はしていない（北海道）。
- ・スギ、カラマツともに出材が増加する見込み（東北）。
- ・出材調整はしていない（東北）。
- ・出材はヒノキのみでスギ、カラマツはなし（中部）。
- ・スギ、ヒノキ出材・販売動向はともに横ばい。カラマツはない（中国）。

(手持ち立木在庫)

- ・手持ちの立木は不足しているが、国有林の立木公売で補充したので横ばい（北海道）。
- ・国有林の請負事業を実地中のため在庫に変動はない（北海道）。
- ・スギ、カラマツとも横ばいで例年並み（東北）。
- ・手持ち在庫はない（中部）。
- ・スギ、ヒノキの手持ち在庫は横ばい。カラマツはなし（中国）。